



幼い頃から書道入門

幼い頃から書道を習っていました。2歳の時に絵手紙を習っていて、その時の先生が書道の先生だったのがきっかけで書道を始めました。細かいことは覚えていませんが、筆や鉛筆を持って書いていた記憶は残っています。字を書くことがとても好きだったのと、きれいな字を書けるようになりたいという想いで続けてきました。高校では書道部がありましたが、踊りながら書くというパフォーマンスがあり、違う部活動に所属していました。その中でも書道は続けていて、高校の書道部の先生に質問に行くこともありました。

本をきっかけに地域医療に興味

高校生の時に「ナラティブホームの物語-終末期医療をささげる地域包括ケアのしかけ-」という本を読みました。富山県砺波市の「ものがたり診療所」という診療所の佐藤伸彦先生の著書です。患者1人1人に寄り添った治療の記録を記した内容でした。幼い頃から富山で生まれ育ち、地域に貢献したいと考えていた自分にとって、とても感銘を受ける内容でした。以前から医療の分野に興味を持っていましたが、その本との出会いをきっかけに、患者さんと家族がともに住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるよう、患者さんに寄り添える医師を目指したいと考えるようになりました。大学卒業後も富山で地域医療に貢献したい想いと、西洋医学だけでなく東洋医学についても学びたいという想いで、富山大学の医学部医学科へ進学することを決めました。

杉谷書道部で先輩後輩の繋がり

大学に入学し、杉谷書道部に入部しました。先輩方とのつながりは強く、病院見学や4年次のCBT(※臨床実習前に行われる基礎知識の試験)の相談に乗ってもらいました。先輩から頂いた情報と、自分の経験を統合して後輩には伝えていきます。毎年コンスタントに新入部員が入ってくれているので、先輩後輩の繋がりを代々受け継いでいきたいと思っています。

臨床実習について

4年次からは臨床実習が始まりました。授業で学んだ知識を基礎として、臨床の場でより深く実践的に日々学んでいます。わからないことに対しても、質問すれば先生方はとても丁寧に教えてくださいます。恵まれた環境で学べていると感じます。これからどの診療科に進むのかを決めていくこととなりますが、地域医療に従事し地域課題にも取り組む医師として活躍したいと考えています。



杉谷書道部のお勧めポイント

杉谷書道部は先輩が後輩に鉛筆や筆の持ち方、ひらがな・カタカナなど基礎から本を使って丁寧に教えていますので、初心者も大歓迎です。文化祭(医薬祭)では、踊らない書道パフォーマンスをやっています。テスト勉強や初めての一人暮らしなど、大学生活についても先輩が相談に乗ってくれます。日々の勉強の気分転換にもお勧めです。杉谷書道部はみんな仲良く楽しく活動しています。部員は全員ペン字や毛筆がうまくなっています。皆さんも一緒に杉谷書道部で書道を楽しみましょう!